

2378
2





笠真作

上巻

丈

手紙

遠3
2378
236



都雅男子を見て光源氏在昔君と評さる世の口癖然有執語と種と
 君小擬さる男の誰と西鶴史が二代男彼物語小倣ふとる小世之助と
 者と設て一期の盛衰奇話一此を彼撮合してと腹稿粗成るは甘泉堂の
 今年の新版是を出してのわんと云のよて実然も有むるは町風極
 意を棄てての味不美拙工大將鬚時代さるる甲舎の育師匠の由縁此に
 質る方々作中も易く賣中物もと奉柱小膠動る當を希ふも宜是船と刻て探劍
 思ひ出さる趣向も多し注文中もせは案と改再彼此物の本アと目づくる昔の優
 人右所源左衛門玉川千之丞源左衛門の中將の奉るるねども海道下千と巫の業
 平の打物ねとも河内通共久くは當且れも彼君小聲言評語の野郎強ト養の狂
 歌集鈔録ねとも皆所存トをて狂言作者の所詔南盤之寶と二個の中にも有る
 小假用せんと撰べ源左の勁々千と也を似つるきとこれ小定て室町御所の沙懸とらるる
 車分脈のの施りか無心所着るるも膽や都夫礼石吉野乃山尔日と経るも此様





業平
久米千代

見のあき
千之丞
幼名
久米千代

玉川彈正伊保長兵衛
伊登之方郷在



むくろ
人の子ども
井のこ
い

田舎廻りの不仕合
西樹屋四郎
み
云河小あじ時の

四郎女
紅葉
後井筒
女



紫平
△

から人の
つれと
あはれど

あはれど
つれと
あはれど

玉川千之丞

おいらのりせの御ふえよ
内のゆはふひとまをるうれい
かのきふかふひとらひんか
あはれどつれと



伊勢
寒風里

杉之門の茶汲廿
於杉

仲居お玉



六條
三分助町
上林
阿曾田
高橋



久米一代元服
土川千之丞
廿百男と名出ると

女の手
ゆりかげ
年とあそび
わらわ
ありき
あし
ゆき
のき
ゆき
ゆき
ゆき

平初



世平 分別

あつかいなるもの
あつかいなるもの

足利 義兵衛 道 湛海 禪師

自論語の
字眼と
在中
踊る



比丘尼妙西

千之丞
壮年
行状老実
人いんで
実男と云



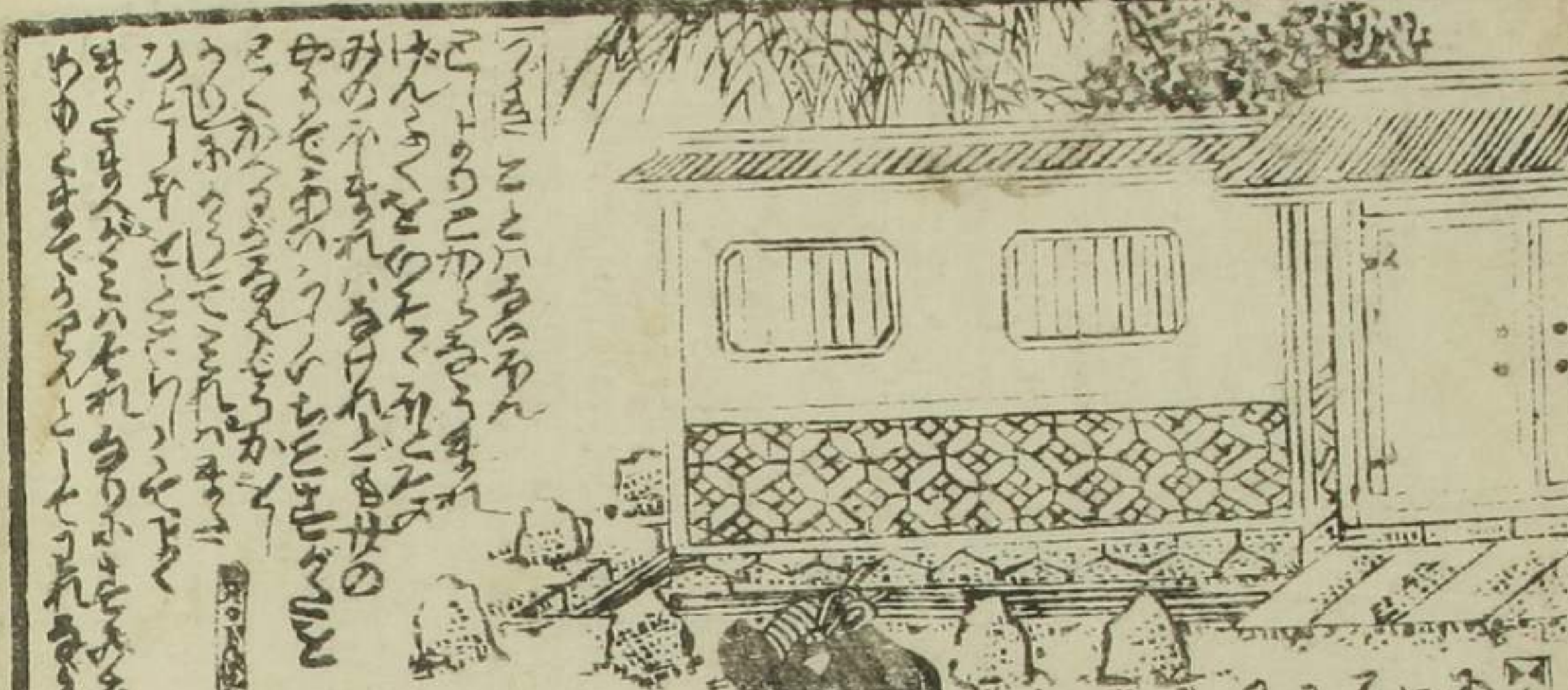
Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introductory text.



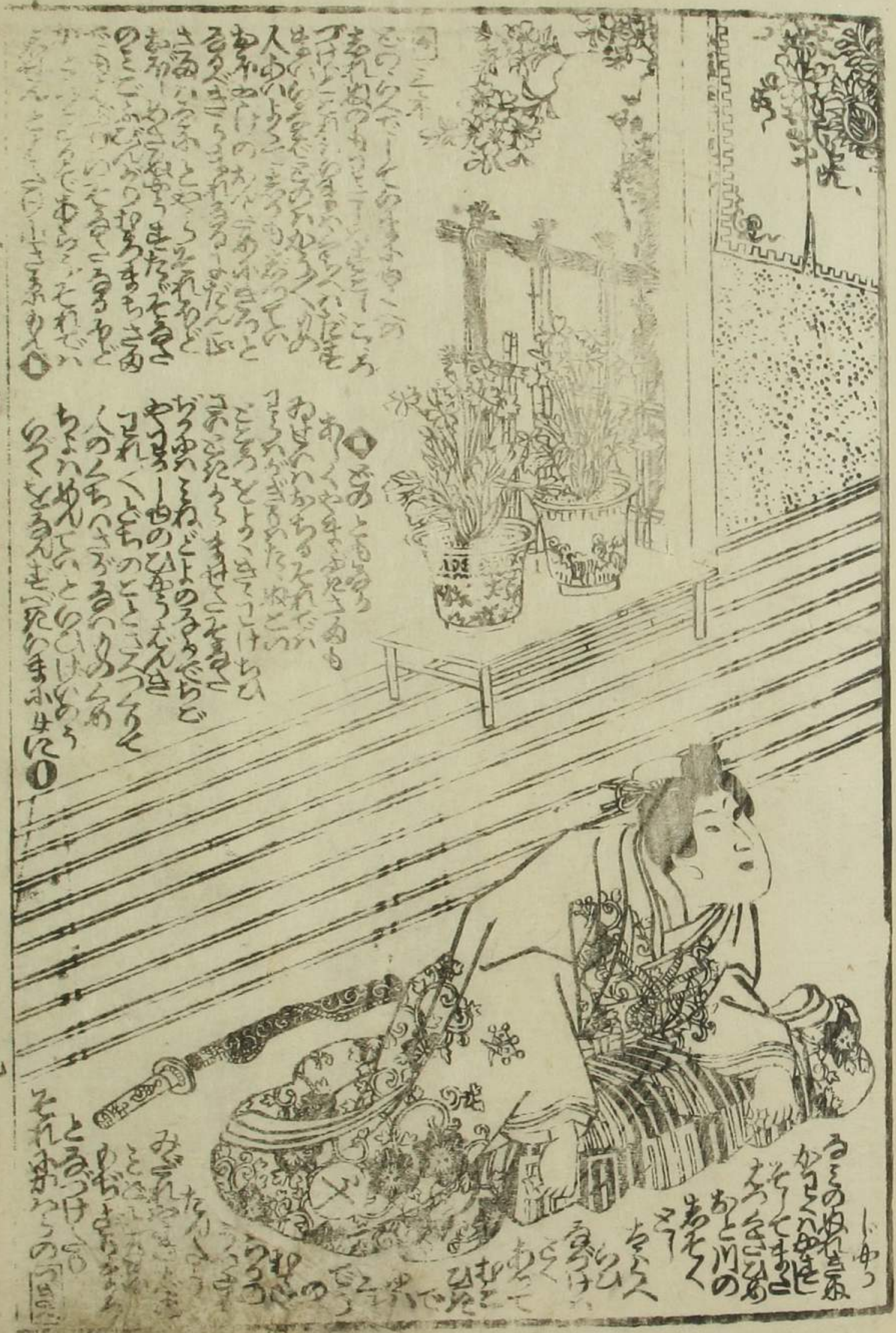
Handwritten text located below the building illustration.



Handwritten text located below the man's illustration.



Handwritten text in vertical columns, likely a dialogue or narrative text.



あつたてのうらみ...
 つげのうらみ...
 入のうらみ...
 わかやうのうらみ...
 さるうらみ...
 ちのうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...

あつたてのうらみ...
 つげのうらみ...
 入のうらみ...
 わかやうのうらみ...
 さるうらみ...
 ちのうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...

あつたてのうらみ...
 つげのうらみ...
 入のうらみ...
 わかやうのうらみ...
 さるうらみ...
 ちのうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...



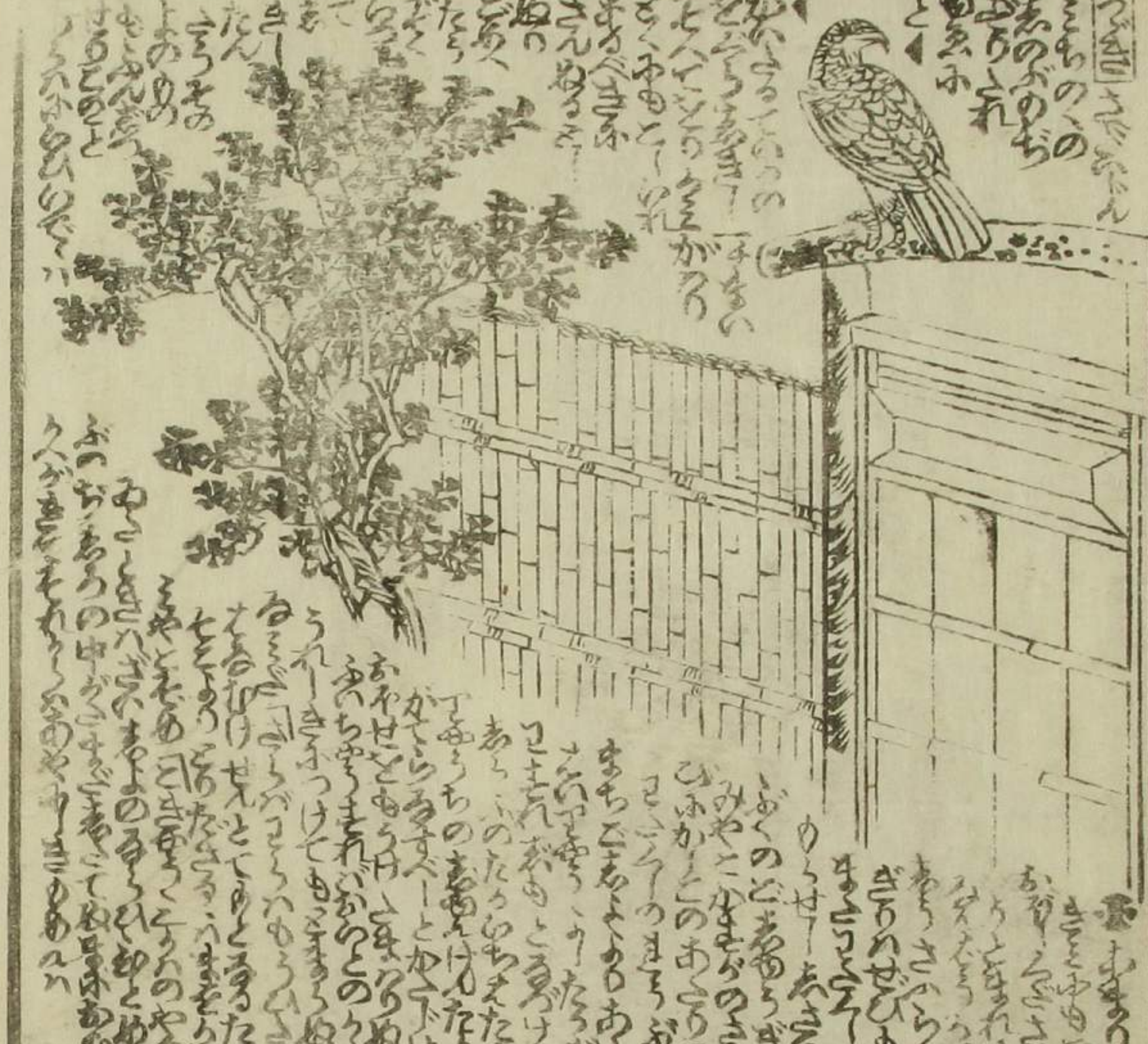
あつたてのうらみ...
 つげのうらみ...
 入のうらみ...
 わかやうのうらみ...
 さるうらみ...
 ちのうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...

あつたてのうらみ...
 つげのうらみ...
 入のうらみ...
 わかやうのうらみ...
 さるうらみ...
 ちのうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...
 のうらみ...

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration of two women. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration of a building and a bird. The text is written in a cursive style.





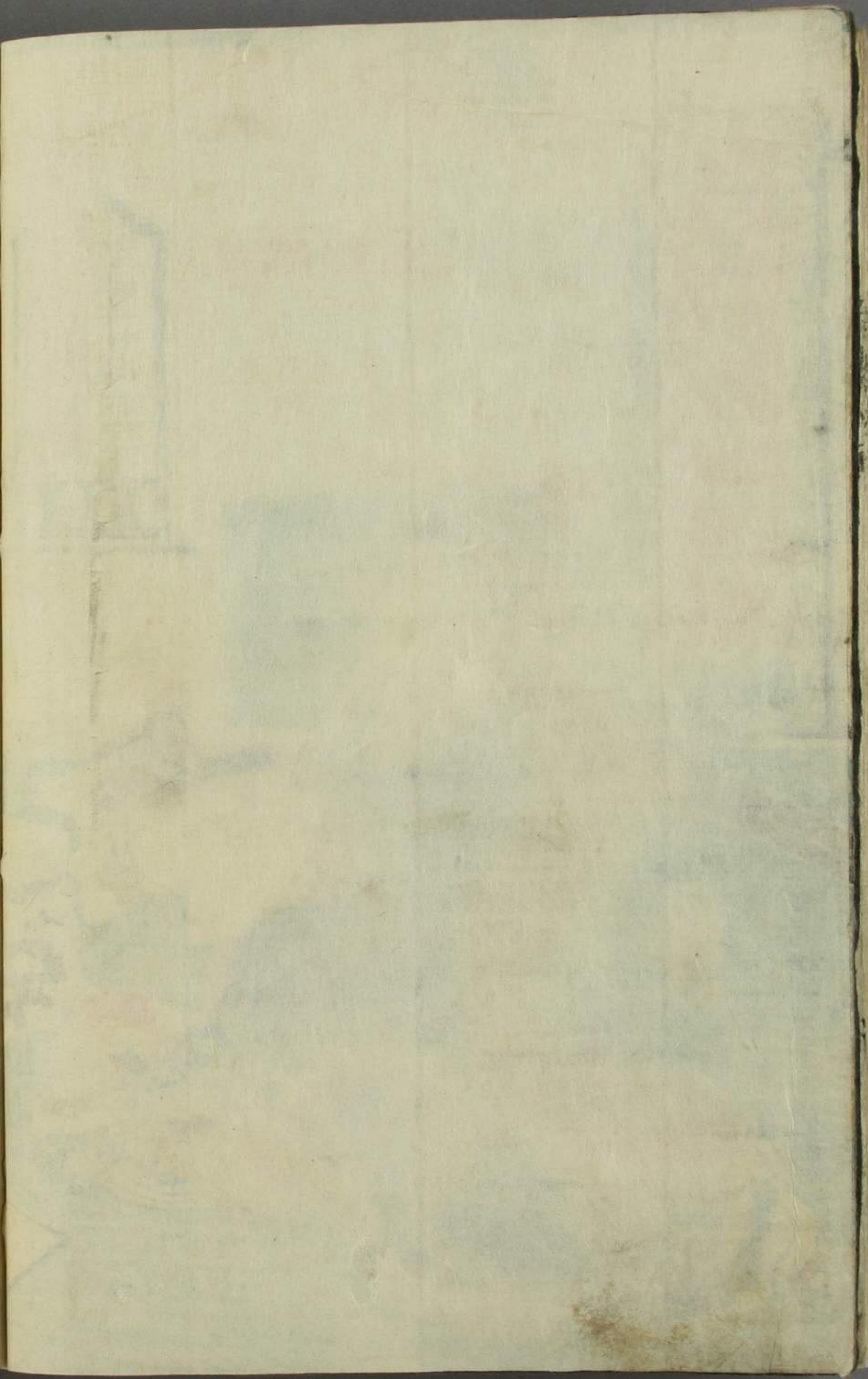
今業平昔面影
初篇

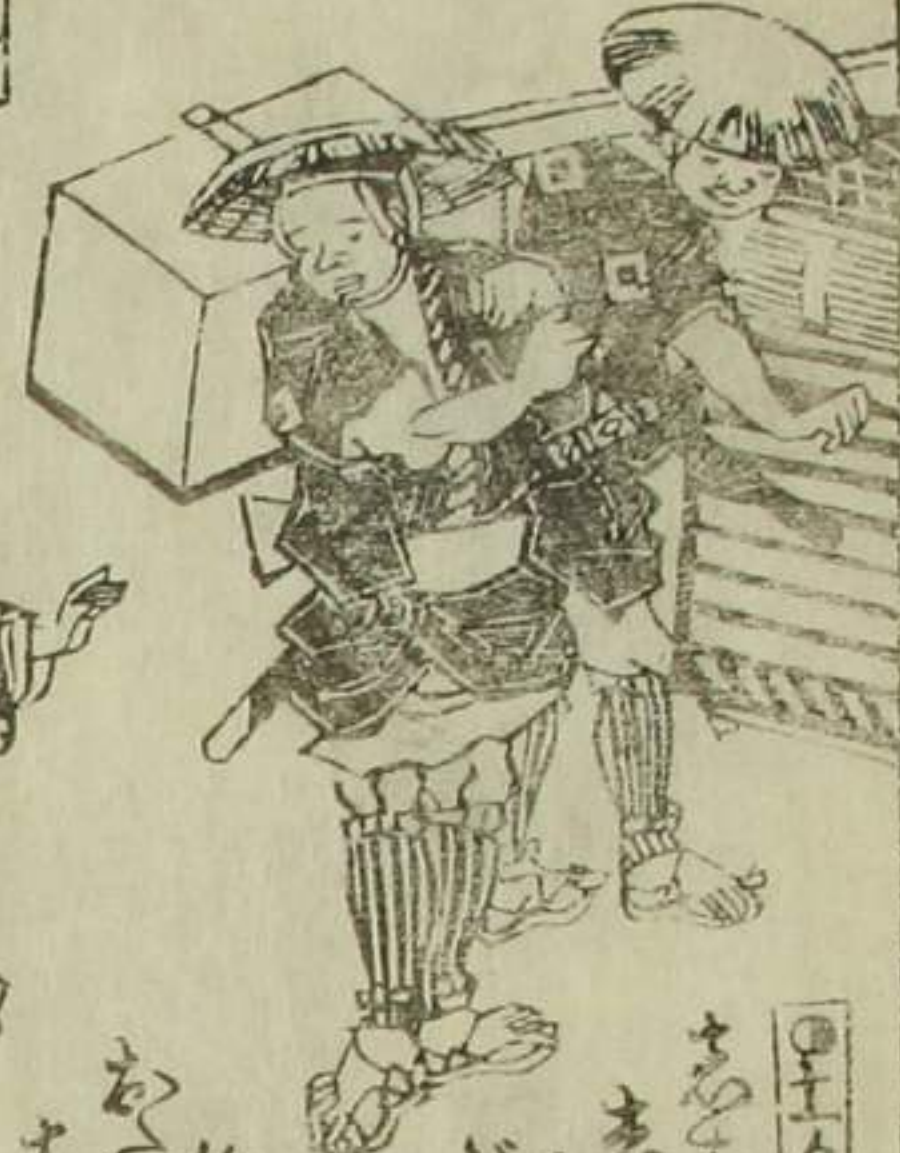
錦朝樓
画

下是



平刀





あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき

あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき

あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき

あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき



あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき
あやが
おひら
さき

ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ



今葉平切
 目右

十四

おんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 おんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 おんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ

ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ



おんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 おんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ

ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ
 ちやうどおんなのこころのまじりあはれりやうと
 あはれあつたののこころをうらやまひつゝ



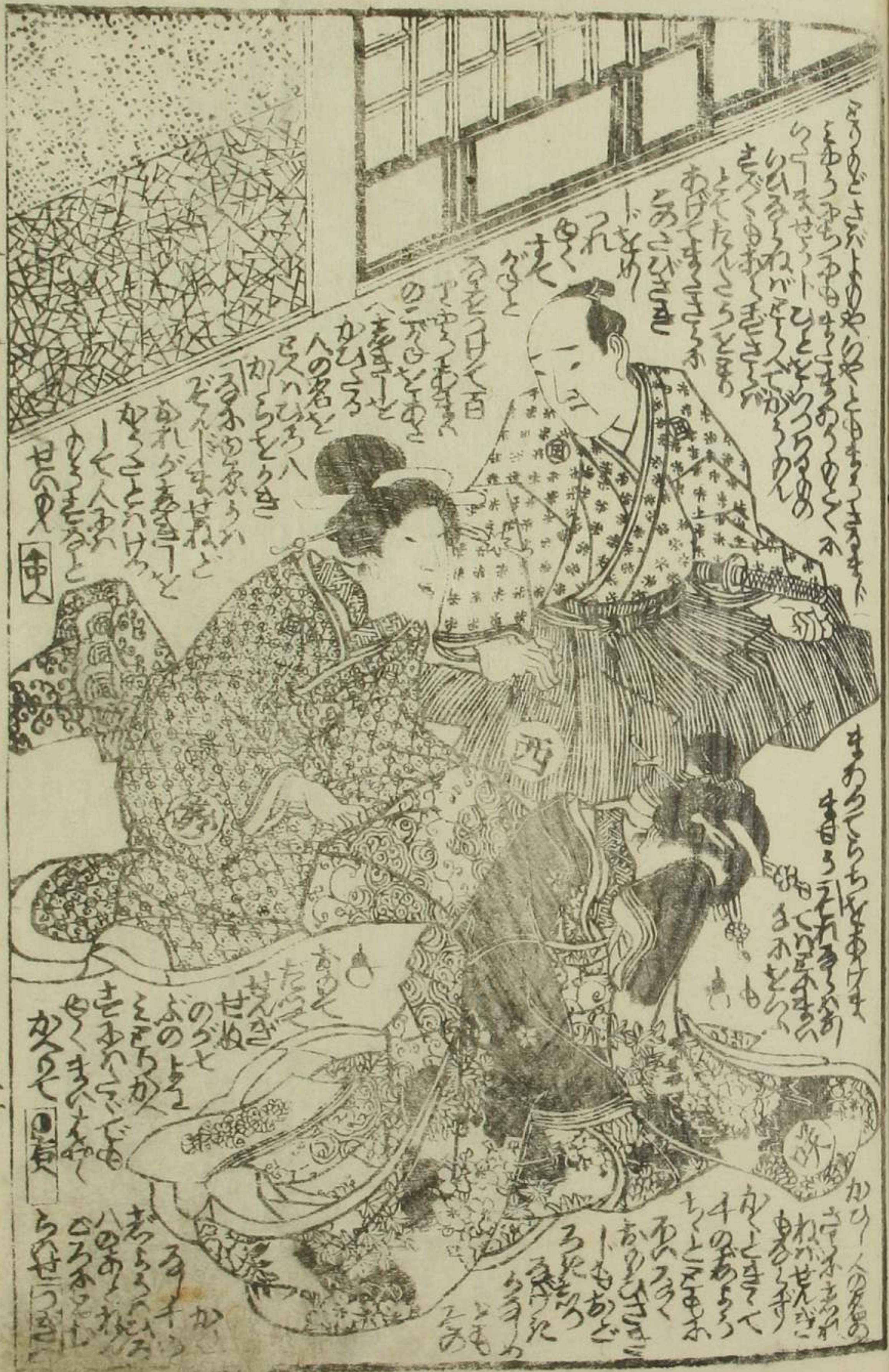
木箱

十九



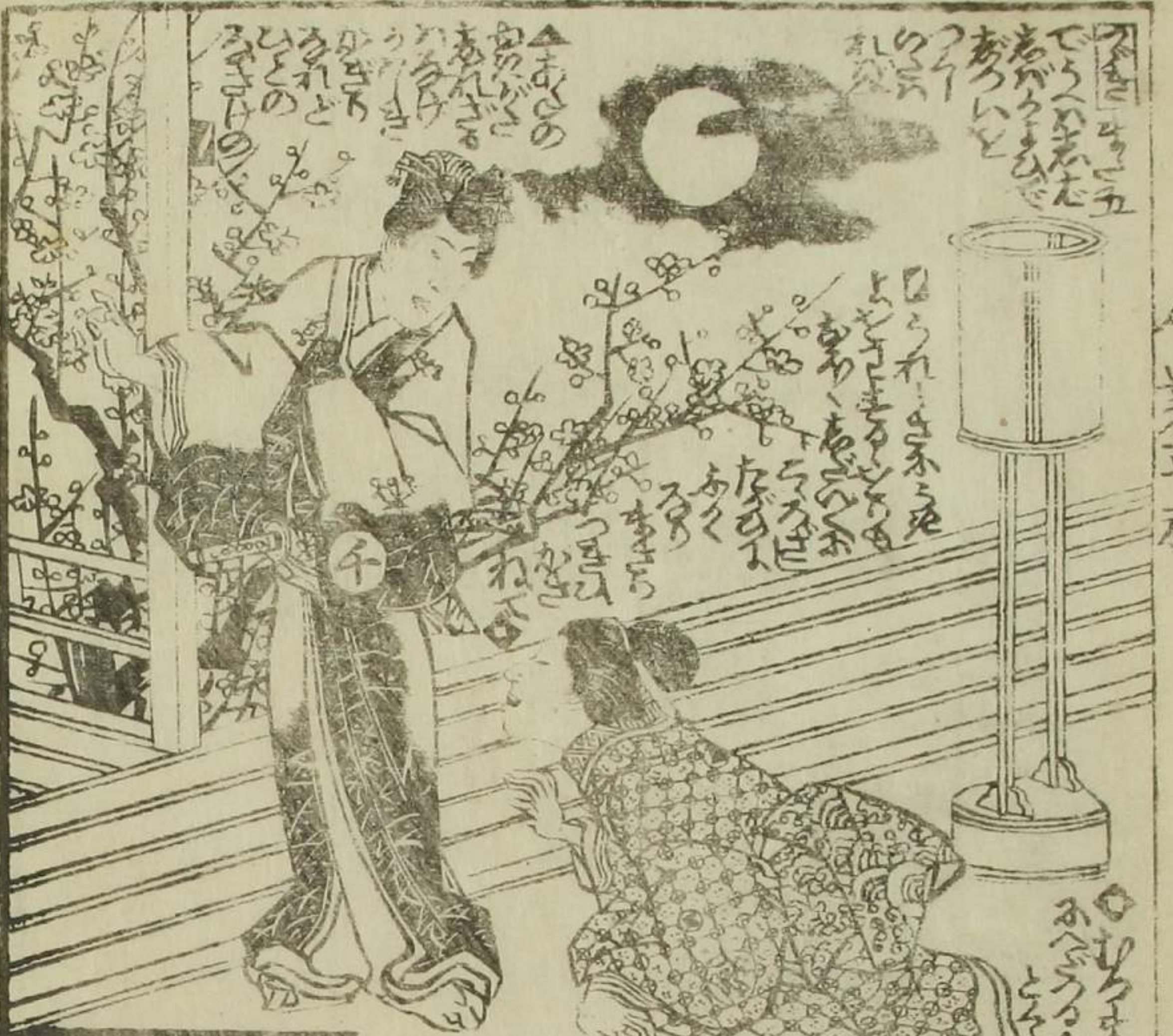
木箱

十九



山崎三郎

山崎



〇これより二つをひききつておぼろの
 夜をねむるは
 ぬきゆく
 〇これより二つをひききつておぼろの
 夜をねむるは
 ぬきゆく
 〇これより二つをひききつておぼろの
 夜をねむるは
 ぬきゆく

笠亭仙果作
 一猛齋芳虎画



仙果作



此二編の伊勢物語月やあめと業平の詠はまの四段目より築城
 の壞処より通ひと有五段目と誰々も知る六段目及川の躰の面影
 と採て作ける共源氏五十四帖一貫ある續物伊勢物語百餘二十
 段許あれど一段一話の讀切るれば是と用て次第と推し一列の書續て永
 と接ぎ竹鞭を狐と乗る馬追ふ如くは複合取事のなるれとことと
 此の序のつぎの御屋基向來黒人方の食物をうけお子供衆
 の浄瑠璃本例の一代男と始愚案も數々撮合してそれ伊勢物語乃
 此方か上りのと見場ととく朱塗若葉の赤本不制衣を存するのよ
 一と販品多飾れとの花巻の紫海苔賣る地方の偶居ふ於て一言記さ

笠亭仙果



今と業平二



足利
 義満公
 さかのの
 儀成
 暎二を
 見そめ
 たま

教ヶ奇歌集一
 藤原の
 風の吹り

いそそり
 あそび
 ちからん
 秋風の
 せんま
 けんか
 玉の
 のはれ



玉河千之丞
 外妻
 咲二





力

力

力



馬

馬

馬



千のあやかし...
あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...



あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...



あやかし...
あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...

あやかし...
あやかし...
あやかし...

Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration of three women. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration of a man. The text is written in a cursive style.



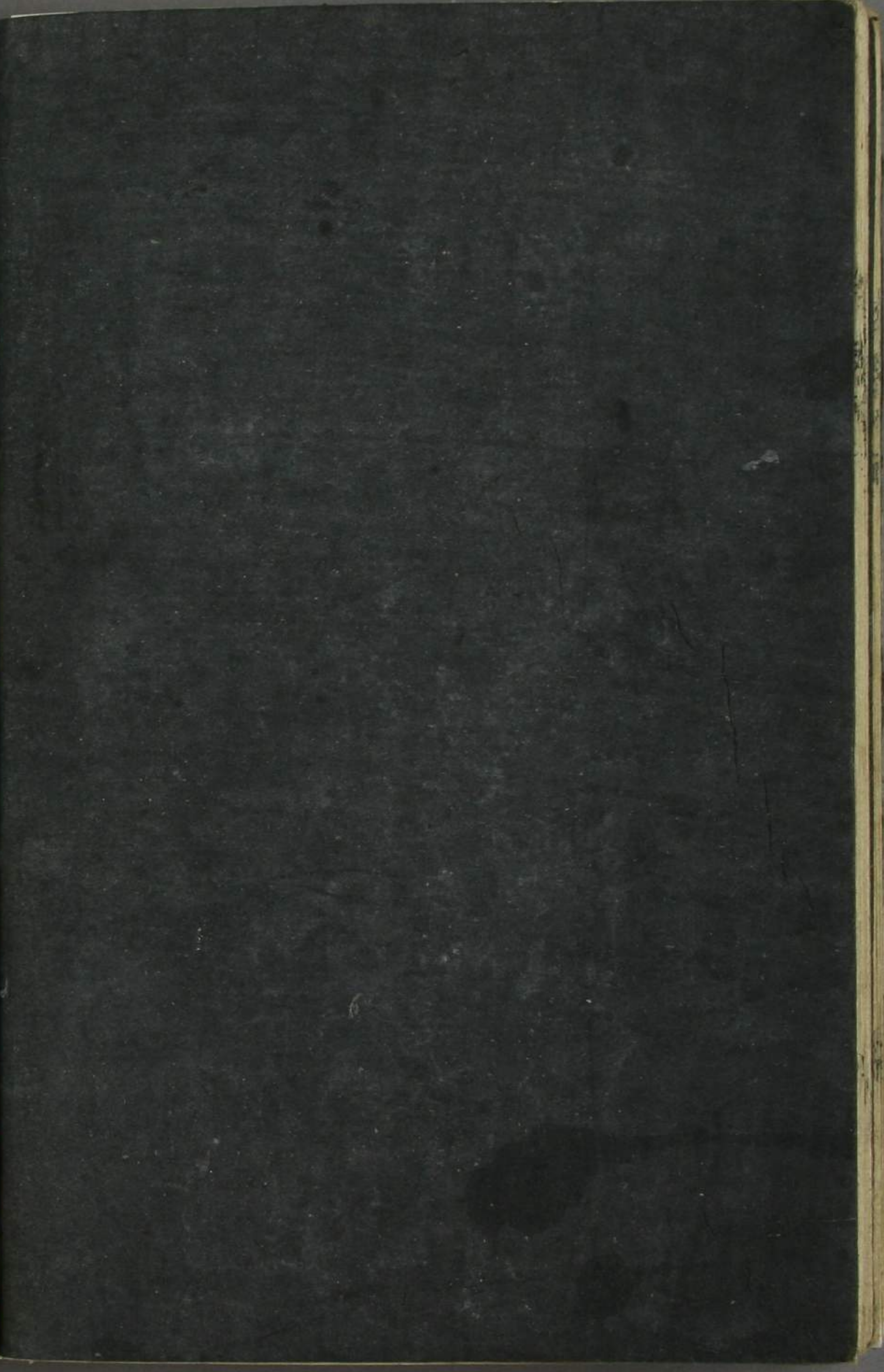
Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration of the man. The text is written in a cursive style.



芳虎画

今業平二
昔面影
編

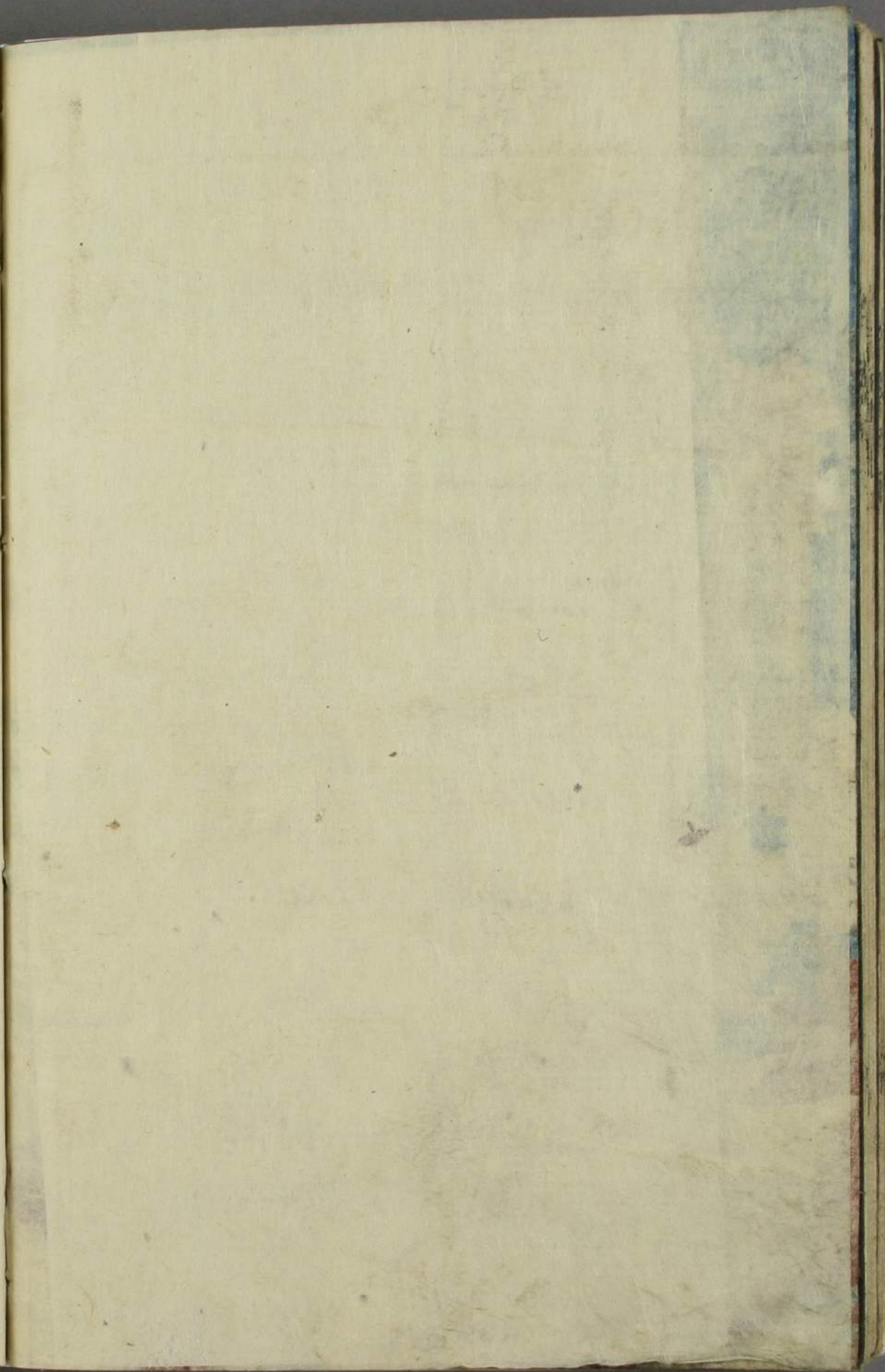
外題曲立國画





Vertical columns of handwritten Japanese text on the left side of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text on the right side of the illustration.







五月のけしき...
あつたし...
なま...
あつたし...
あつたし...

あつたし...
あつたし...
あつたし...

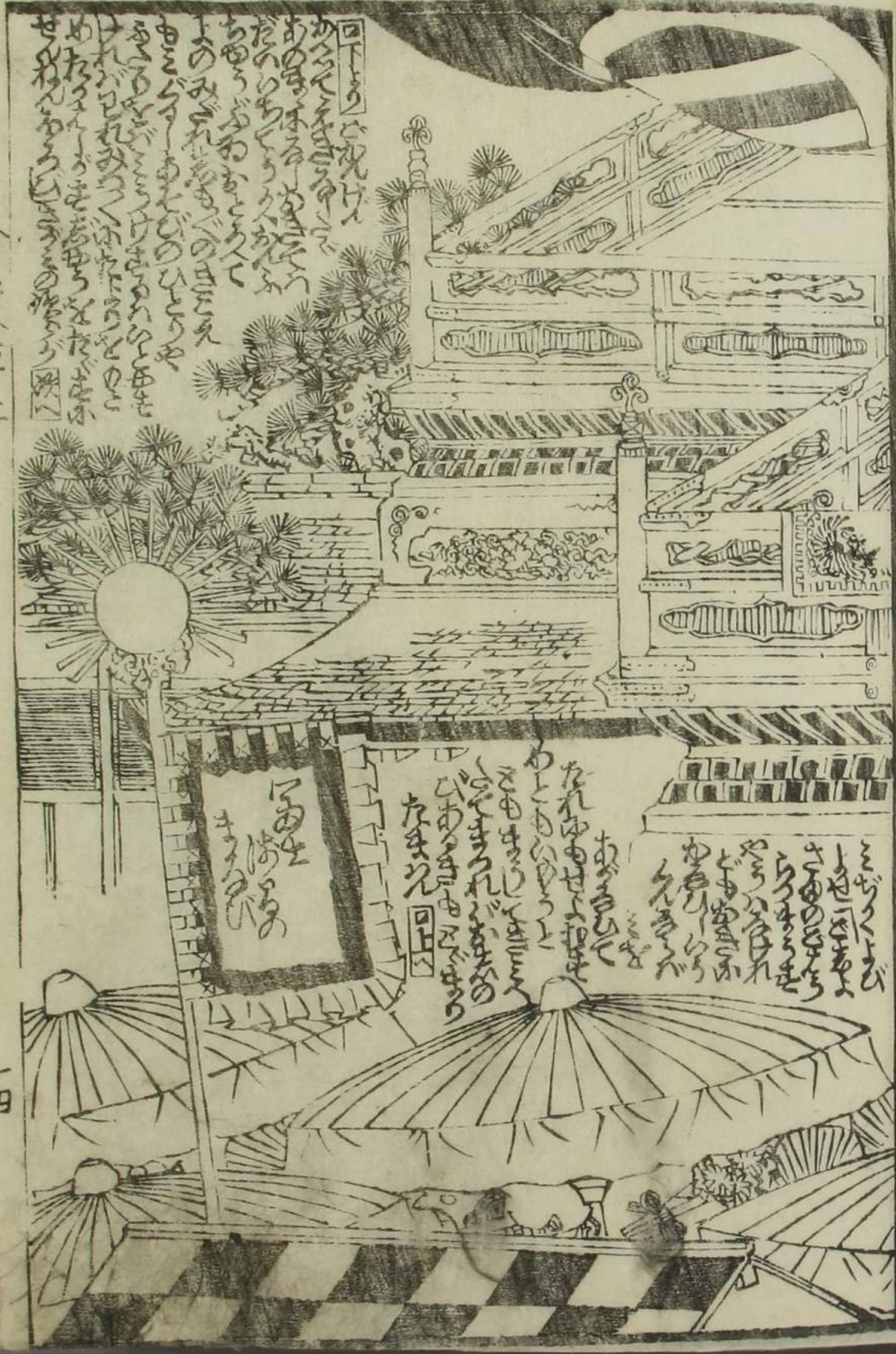
あつたし...
あつたし...
あつたし...

あつたし...
あつたし...
あつたし...



あつたし...
あつたし...
あつたし...

あつたし...
あつたし...
あつたし...



回下りのてんげん
あつてをさるる
たのむちうりか
ちゆうぶあわさ
よのみだれあま
もろくろあま
あつてをさるる
たのむちうりか
ちゆうぶあわさ
よのみだれあま
もろくろあま

あまのて
なれぬもせ
わいぬ
さもま
いあま
たまえ

下二

15



あまのて
なれぬもせ
わいぬ
さもま
いあま
たまえ

あまのて
なれぬもせ
わいぬ
さもま
いあま
たまえ

あまのて
なれぬもせ
わいぬ
さもま
いあま
たまえ



この山は...
山は...
山は...

この山は...
山は...
山は...



この山は...
山は...
山は...

この山は...
山は...
山は...

あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ

あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ

あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ



あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ

あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ

あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ
あつたかといふはいつにやけ
まじりしあつたまあふ

